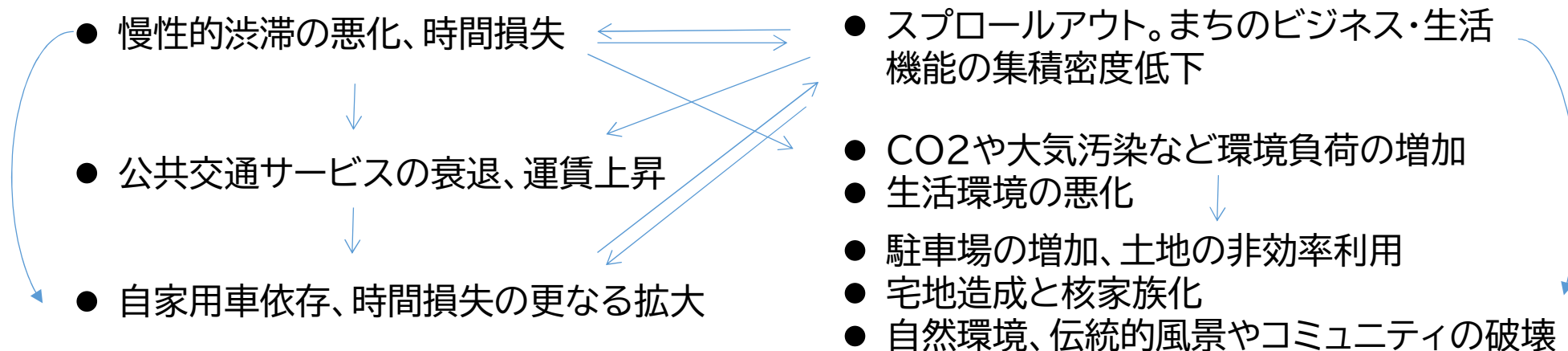


令和7年度の取組の概要について

令和8年3月16日

第4回沖縄交通リ・デザイン県民運動推進会議
内閣府沖縄総合事務局運輸部企画室長

- 沖縄では、**過度な自家用車依存が常態化**し、都市部における慢性的な交通渋滞と地方部の「交通空白」が並行して進行し、時間・活動機会等が損失。
- このままでは、沖縄の移動・交通は、沖縄の社会、経済、環境の持続的な好循環に貢献するどころか、むしろ悪循環を加速する要因になるのではないか。



- 生産性低迷による所得水準の低下
- 所得・可処分所得の圧迫(エネルギーコスト増×労働時間短縮)
- 低所得層でも自家用車が必要に
- 子供や大人の学ぶ機会や質の高い生活を営む権利の喪失
- 貧困層の拡大、貧困の連鎖加速

生活・社会の質の低下

- 働ける時間の減少と人手不足の深刻化
- 生産活動の縮小
- 勤務・居住地の制約
- 移動・輸送コストの増大と稼いだ富の県外流出増大(車両、燃料など)

ビジネスの質の低下

- 訪れる価値・魅力の低下
- 地域文化の喪失
- 遠方への来訪意欲・可能性の低下
- 実質滞在時間短縮
- 地域内消費の低迷

観光の質の低下

- 社会生活や様々な活動を支える**基盤としての移動・交通のリ・デザイン**は、暮らしや活動の**主役である市民や民間の主導**で、「**ありたい姿**」を描き、その姿の実現を目指して行われるべきもの。

⇒沖縄交通リ・デザイン官民共同宣言、沖縄「交通渋滞・交通空白」解消イニシアチブ

- 沖縄交通リ・デザインの**中心的なコンセプト**は、

- ①**政策立案プロセスの再設計**(あらゆるフェイズにおける市民の主体的な参画、巻き込み)

⇒パブリック・インボルブメントの重視(直轄調査、補助事業)

- ②**目指す「ありたい姿」と「豊かさ」の再定義**

⇒移動・交通のもたらすアウトカムとロジックモデルの整理(直轄調査)

- ③**アクション(「ライフスタイルの転換」×「移動環境の整備」)が連動する仕組みの再構築**

⇒「草の根」の通勤・通学行動の転換実証&継続に必要な仕掛けの抽出(直轄調査)

経済、金融、教育、観光、エネルギー等の様々な主体による共創(県民運動推進会議)



沖縄交通リ・デザイン県民運動推進会議

企業や個人の行動変容と利便性の高い交通ネットワークの構築を一体的に推進
GW2050 Projectsをはじめ、民間主導の取組と連動

DX・GX

循環型再エネ

価値創造産業

価値創造都市

<企業や個人の行動変容の推進>

- 行動変容の機運づくり
- 成功事例の設計・創出(企業・学校)
- 優良事例の発信(シンポジウム)、将来的なプラットフォームの発展

<交通サービスデザイン・機能の再構築>

内閣府の取組

○沖縄交通リ・デザイン県民運動推進会議

- 官民の様々な主体が参画し、企業や個人の行動変容の推進と交通サービスデザイン・機能の再構築を議論

(1)政策・計画立案プロセスにおける市民参画と目指す姿・目標・KPI等の設定の考え方に関する調査

- 欧州委員会のSUMP(持続可能な都市モビリティプラン)ガイドライン及び実践例における市民参画や目標・KPI等の設定の考え方
- Well-beingと関連する指標と移動・交通との関係、ロジックモデルの考え方の整理
- 現状の計画策定プロセスを前提としつつ、上記の知見を活用・実装するための工夫の整理

(2)通学・通勤における行動変容調査

- 那覇西高校、首里高校、コザ高校の3校を対象に、WS等のPIの実施、競争・ゲーム的な要素も含めた通学の行動変容の実証
- 沖縄セルラー電話、浦添市、宜野湾市、豊見城市、琉球大学を対象に、時差通勤・公共交通利用等の通勤の行動変容の実証

他主体の取組

沖縄県

(沖縄県県民等参加型地域公共交通検討事業 ほか)

各自治体、琉球大学

(公共交通利用促進・ノーマイカーの取組・モビリティマネジメント、働き方改革 等)

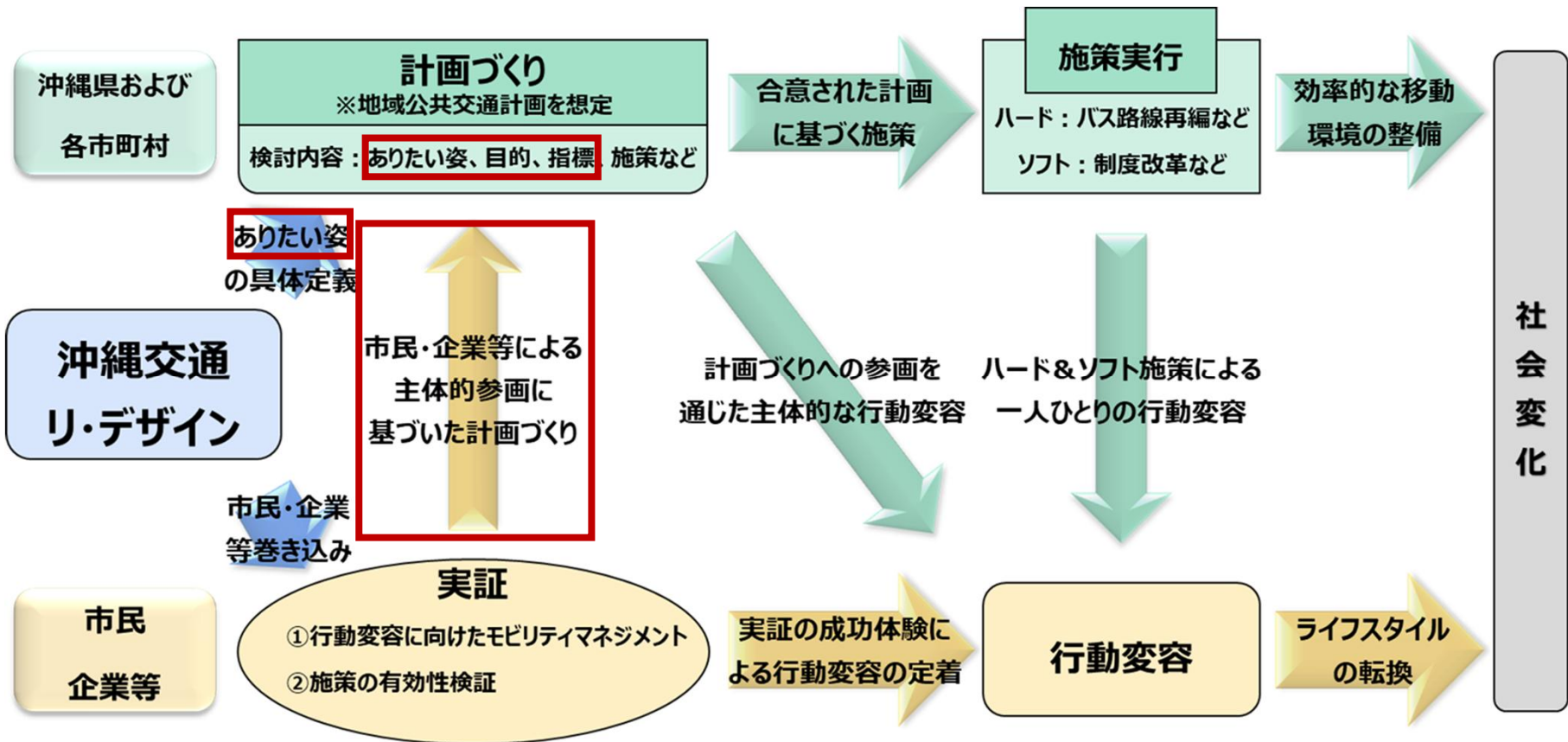
OIST、NAISTほか
(So-SMART Project)

GW2050Projects

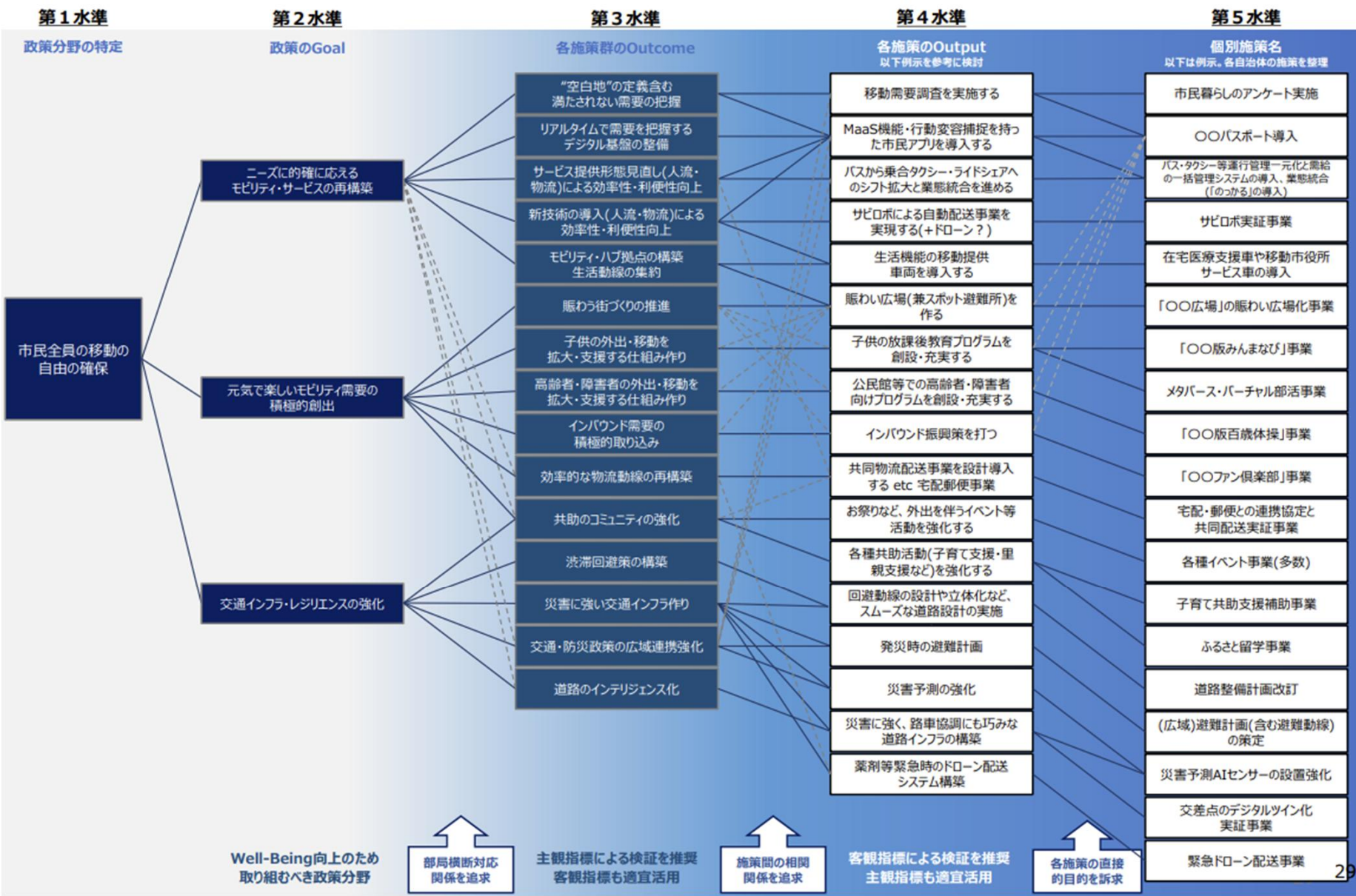
・
・
・

連携

- 地域交通法に基づく地域公共交通計画の策定にあたって地方公共団体において実のある検討を行えるようにするため、「アップデートガイダンス」が策定・公表されているところ。
- こうした国の政策方針を前提に、これを補完し、一層の実質化を図る観点から、計画策定プロセスに沖縄交通リ・デザインのコンセプト(①政策立案プロセスの再設計、②目指す「ありたい姿」と「豊かさ」の再定義)を盛り込むべく、計画策定プロセスにおける市民の主体的な参画・巻き込みや、移動・交通環境の改善による多様な効果(アウトカム)に関する指標等について調査を実施。



リファレンス・ロジックツリー 【モビリティの維持・向上による生活環境の改善編】



- 通学行動の転換について、今年度は3校(那覇西高校、首里高校、コザ高校)を対象に、説明会やワークショップ、校内イベント等のPIを実施し、通学行動の転換(手段の分散(例:徒歩、自転車、公共交通×遅刻緩和)、時間の分散(例:早朝通学)等)の実証を実施。
- また、あわせて、日々の通学における課題や実証を通じて得られた気づき等の収集や分析・可視化、実証への参加を促すインセンティブのため、So-SMART Project(NAIST、OIST等が参画)プロジェクトチームと連携。
- 具体的には、実証期間中にPTで開発を進めているコミュニケーションツールを活用し、チャットボットによる意見の収集、収集した意見の地図上での可視化、ゲーム要素としてのクラス対抗ランキングを実施。

通学実証



沖縄の交通に関する説明会の様子@那覇西高校



未来の沖縄や実証に関するWSの様子@首里高校



生徒主導の取組@コザ高校(上)、首里高校(下)

So-SMARTツール



チャットボット画面

地図画面

今年度の直轄調査の取組事例(通勤実証(宜野湾市))

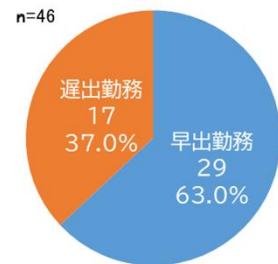
- 民間主体のみならず、基礎自治体においてもライフスタイルからの転換を進めていくことが必要。
- 宜野湾市では、市の行政サービスを維持しつつ渋滞緩和対策を行うための方法として、令和7年1月から「琉大医学部開学等に伴う交通渋滞緩和のために行う遅出勤務」を試行的に運用。
- 沖縄県によるPIと連携し、宜野湾市において通勤実証を実施。具体的には、令和7年12月から早出勤務(①0730-1615、②0800-1645)を全庁に試験的に導入。
- 実証に参加した市職員からは、通勤における渋滞回避・時間短縮に加え、余暇時間の創出、子育て時間の確保、通勤時のストレスの低減といった前向きな意見が寄せられ、令和8年4月からの実装を目指す。

実証実施後アンケート

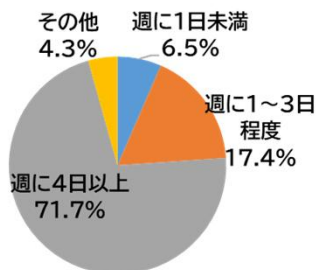
- ✓ アンケートは実証期間(R7.12.1～12.26)の間、早出勤務または遅出勤務を実施した職員を対象(回答者46名)
- ✓ 通勤形態は『早出勤務』が63.0%、『遅出勤務』が37.0%
- ✓ 『週4回以上』遅出または早出を実施した職員は7割以上。
- ✓ 実証に参加した理由として『沖縄の交通事情や普段の働き方について課題を感じているから』、『取組自体に魅力を感じたから』が約6割

→沖縄の交通事情に関心のある職員は一定数いるのでは？

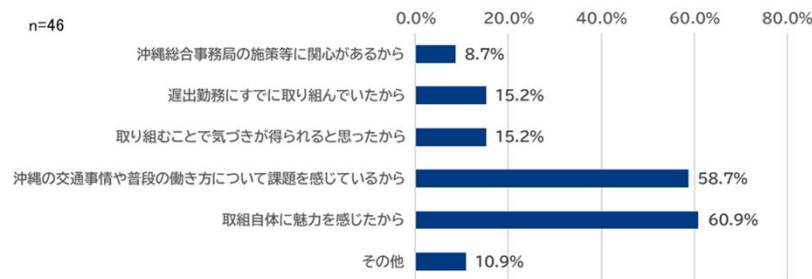
【通勤形態(早出or遅出)】



【週何回実証に参加したのか】



【実証に参加した理由】



(出典)第2回沖縄交通・デザインシンポジウム(R8.2.17開催) 宜野湾市発表資料

実証に対する好意的な感想

- ✓ 渋滞する時間を避けて出勤することができる、混雑の少ない時間の出勤で通勤時間の短縮
- ✓ 帰宅する時間が早まり、自己の時間が有効利用できる
- ✓ 早出勤の場合、始業時まで人が少ないので自分のペースで集中できた
- ✓ 早出を行うことにより今までギリギリだった子供の迎えが余裕になった

実証で課題に感じたこと

- ✓ 時間がバラバラで係、または課全員で行う作業、業務等に支障を及ぼすこともある
- ✓ 他の機関との会議等に参加する際に、勤務時間内に帰宅することが困難であったりと、自分の仕事内容と勤務時間が合わないことが多々見られた
- ✓ 窓口業務が多い部署は閉庁時間まで対応できる人数を揃えておかねばならないため、早出勤務には取り組みにくいのではないかと
- ✓ 時差通勤に係る早出遅出の際、入退庁時の上司の確認作業が出来ないことや、他部署依頼の会議時間(早出遅出による就業時間のずれ)の設定が難しい

第2回沖縄交通リ・デザインシンポジウム(R8.2.17開催)

- 令和8年2月17日、第2回沖縄交通リ・デザインシンポジウムを開催。
- 行政のほか、交通事業者、経済界、自治体、生徒・学生等による取組を紹介するとともに、ポスターセッションを通じて参加者間の交流・創発を促進。

シンポジウム発表者(☆は登壇)と発表資料

- ・経済界：GW2050 PROJECTS 推進協議会(☆) ・高校：首里高校(☆)
・事業者：(株)琉球バス交通(☆) コザ高校
日本トランスオーシャン航空(株)(☆) 那覇西高校
(株)日立製作所
- ・行政：沖縄県(☆) ・大学：琉球大学学生(☆)
宜野湾市(☆) So-SMARTプロジェクト(奈良先端科学技術大学院大学)
沖縄市

【シンポジウムHP】



シンポジウムの様子



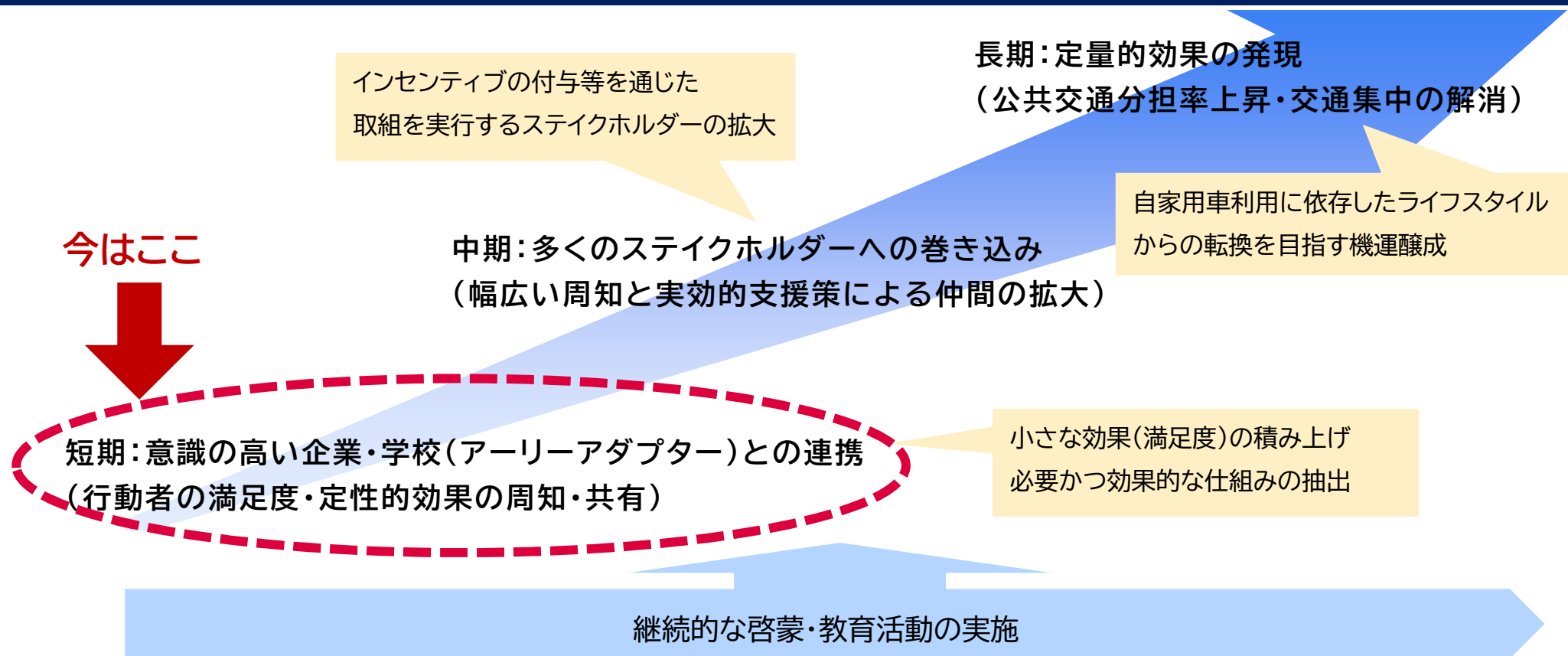
琉球大学神谷教授総括

- ✓ 沖縄に来て二十数年になるが、これまでで、今が最も公共交通が注目を集め、取り上げられている。
- ✓ また、これまでは、公共交通というと行政だけでやっているようなところがあったが、民間主体の取組が出てきており、産業や労働生産性の観点から議論されるようになったり、行政側でも「楽しさ」のような視点が出てきたりしている。
- ✓ さらに、県民ひとりひとりのレベルでも、「自分もバスに乗ってみよう」とか、「子どもをバスに乗せてみよう」、「週に1回でも送迎をやめてみよう」といった形で自分たち自身が変わっていかねばならないという意識が出てきた。広がり期待。

沖縄総合事務局庁舎内における企画展

- 令和8年3月9日～13日に、内閣府沖縄総合事務局が所在する那覇合同庁舎2号館1階の共用スペースにおいて、第2回沖縄交通・デザインシンポジウムで展示したポスターの展示を行った。





来年度

実証の展開・
アクションプラン策定

- ・ 通勤・通学行動の転換について取組内容をブラッシュアップし実証を展開
- ・ 並行してこれまでの成果をとりまとめ、今後のアクションプランを策定

再来年度以降

施策実施

- ・ アクションプランで示した施策を推進し、さらなる取組の輪の拡大を目指す